歴史総合-DX

**1929年①（昭和4）世界大恐慌の始まり・昭和恐慌❶**

厳しい就職難の1929年（昭和4）に無声映画「大学はでたけれど」（小津安二郎・監督）が封切上映され、「大学は出たけれど」が流行語となった。3月には前年の初の衆議院選挙で非公式に日本共産党から支持を受けて当選し、前年の「三・一五事件」の摘発を逃れた京都3区の「日本労農党」の山本宣治議員が暗殺され、4 月には同様の共産主義者・社会主義者の残党狩りともいえる「四・一六事件」が起こり、暗い時代を象徴した。 5月に至って生糸の国際価格が暴落、6月に田中義一内閣は困窮する国民の活路を海外に求めて「拓務省」を新設して首相自らが大臣に就任したが、7月には中国大陸で起こった関東軍の張作霖爆殺事件絡みで田中義一内閣が総辞職した。新たに組閣した立憲民政党の浜口雄幸内閣は、緊縮財政を推進、9月は異常冷夏で農作物に霜が降り、アメリカでウォール街の株価大暴落があり、世界経済がデフレーションの渦に巻き込まれることとなった。10月には農家は大豊作で「豊作貧乏」 の状態となり、米価暴落で深刻な「農業恐慌」が発生した。11月には賛否ある中、第一次世界大戦中に離脱した金本位制に再復帰する「金解禁」を断行、翌年1月に施行されたが、日本の金本位制の復帰は、嵐の中で扉を開く結果となり、1930年（昭和5）は「昭和恐慌」の年と歴史に刻まれることとなってしまった。